

いしかり局ちゃんねる



令和4年4月22日 第15号

令和4年3月に、管内の特別支援教育の充実に向けて、特別支援連携協議会を行いました。協議会は、子ども発達支援センターや児童相談所、ハローワーク、石狩振興局、小・中学校、高校、特別支援学校、大学、障がい児・者の親の会など、医療、保健・福祉、労働、教育、保護者の代表者が出席して、オンラインで行いました。

今回の通信では、協議会で話し合った内容を、「Topic 1～5」として掲載しました。学校や関係機関の取組を知っていただくとともに、子どもの様子を見るときや支援をするとき、子どもの対応について相談したいと思ったときの参考にしてください。

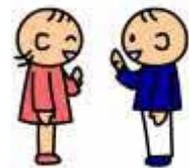
Topic 1 ～「子どもが、どんな支援や配慮を必要としているか」～医療から～

発達障がいについて、特徴的な行動が当てはまる＝〇〇障がい、という見方だけでなく、本人がどんな支援や配慮を必要としているかということに目を向けることが大切です。

本人の状態を見るときに、周りの人たちが戸惑ったり困ったりする行動が見られるかということだけでなく、**本人が何にどのくらい困っているか**、という視点を持ち、どのような支援がよいか考えるということです。

例えば、乱暴な言葉や行動をしてしまうときでも、本人は、それがしたいわけではなく、うまく伝えられなくてやっつけてしまっていることがあります。

「伝えたいけれど、うまく伝えられない」、この困難さに対して支援することが大切です。



Topic 2 ～『ペアレント・メンター』って、知っていますか？』～親の会から～

「**ペアレント・メンター**」とは、「親による親のための相談者」という意味で、発達障がいがある子どもをもつ先輩親が、日頃悩みをもつ親御さんたちの相談を受け、今までの子育て経験を生かして気持ちに寄り添い、親御さんたちを応援する方々のことです。

通常の学級と特別支援学級のどちらに進むべきかといったことや高等学校への進学、その先の将来はどうなっていくのかなど、保護者の様々な不安や悩みについての相談先の1つとして、ペアレント・メンターがあることを、学校の先生などから紹介していただきたいと思います。

ペアレント・メンターの相談の希望やお問い合わせは、直接、または学校や関係機関を通じて、お住まいの市町村の福祉窓口や子ども発達支援センターにご連絡ください。

なお、NPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバーでは、北海道・札幌市の家族支援を行っていますので、ホームページをご覧ください。

北海道
保健福祉部の
ホームページ



親の会
クローバーの
ホームページ



Topic 3 ～「自分の思いを伝える方法、力を身に付けてほしい」～労働・就労支援から～

社会に出て、仕事をする中で、障がいの状態に応じて配慮や支援をしてほしいとき、「困っている内容」や「何を支援してほしいのか」を、職場の上司や同僚に伝え、理解してもらうことが大切です。

伝え方は、相手に直接伝える方法だけでなく、話しやすい人に相談して、代わりに伝えてもらうなど、周りの助けを借りてでもよいので、伝えられることが大事です。

周りが理解して対応するために、本人の「好きなことや得意なこと、苦手なこと」や「困っている状況で、どんな支援をするとよいか」を学校から職場へ引き継ぐことも大切です。

本人が、もてる力を発揮して、生き生きと仕事ができるように、学校で、**自分のできることを見付ける力や、自分の思いや考え、できることを相手に伝えられる力を身に付けてほしい**と思います。



Topic 4 ～「特別支援教育の専門性を高めるために」～小・中学校、高校から～

学校の先生方が特別支援教育の専門性を高めるために、オンライン授業改善セミナーなど、管内で行っている研修に参加しています。

このセミナーでは、特別支援学級等を担当する若手の先生方が、指導力の高い先生の授業を参観して、教師の具体的ななかかわりや個の状態に応じた指導や支援について学んでいます。

実践をとおして指導技術を高めることができるよう、研修で学んだ内容を生かして、生活面の指導や授業づくりに取り組んでいます。

また、小・中学校や高校では、子どもの実態に合った支援を行うために、特別支援学校の先生や教育局の専門家と連携した取組を行っています。専門的な視点からのアドバイスをもとに、子どもの理解を深め、支援の方法の検討を行うなど、子どもや保護者の思いに寄り添った対応ができるよう、先生方の専門性の向上を図っています。



Topic 5 ～「子どもへの指導や支援の充実に向けて」～特別支援学校から～

小・中学校や高校に、特別支援学校の先生を派遣する「特別支援学校パートナー・ティーチャー派遣事業」を行っています。

子どもの実態把握や支援の方法、個別の指導計画の作成などについてアドバイスをし、その内容をもとに、子どもの対応について学校の先生方が話し合い、適切な支援を行うだけでなく、個別のケースを他の子どもの対応に生かすなど、学校での支援体制づくりにもつなげることができます。

訪問する前に、子どもの実態や行っている支援について整理しておくことで、より具体的なアドバイスが可能になり、訪問の時間を有効に活用することができます。

子どもへの適切な支援や学校の支援体制づくりに向けた取組を、事業を通じてサポートしていきますので、ご活用ください。

